

# オフィス山田の 手作りパソコンネットワーク



11月23日、Windows95日本語版が発売。本誌の読者ならこの記事を読む頃にはすでに買っているという人も多いだろう。この日同時発売のMicrosoft Plus!(マイクロソフトプラス!)は、Windows95のネットワーク機能をより完成された形に強化するツールだ。Windows NT Serverの導入が難しいと思っていた人にも手軽にネットワークが構築できるほか、インターネットへの接続に便利な機能がついてくる。

## Vol.7 マイクロソフトプラス! のネットワーク機能 2台のパソコンでも作れるサーバーとインターネット接続環境

山田祥平

米国では同時発売になったけれど、日本ではベータ版の配布も遅かったので多少は遅れるんじゃないかなと思っていたプラス!が、本体といっしょにリリースされたのは喜ばしい。また、11月23日にはMicrosoft Office for Windows 95やMicrosoft Works for Windows 95なども併せて出荷されている。つまり、オペレーティングシステム以外のソフトウェアも、ことごとく米国版から90日以内という理想が守られたわけで、ここは、マーケティング云々をいう前に、マイクロソフトの努力をほめてあげてもいいんじゃないかと思う。

あとは、30日以内とされているロータスのSuper Office96のリリースや、90日以内をめどに2月の出荷が予定されているジャストシステムの一郎Ver.7が出てくれば、主要な仕事のほとんどを32ビットアプリケーションでこなせるようになる。さらに、それを追いかけるようにMicrosoft AccessのWindows 95版が出てくる。

米国では、この年末のクリスマス商戦がコンシューマー市場をターゲットにしているベンダーの正念場みたいだが、日本では、

ビジネス市場、コンシューマー市場を含めて1996年の春ごろに大きな波が押し寄せるのだろう。そうなる、初めてWindows95が事実上の標準的な地位を獲得するに違いない。

そんなわけで、今回は、同時リリースのマイクロソフトプラス!の日本語版で提供されるネットワーク関連の機能について紹介することにしよう。

### Win95とモデムだけで サーバー機能を提供

まず、これさえあればほかはいらないというユーザーも少なくないはずのダイヤルアップサーバー。

パソコンにモデムを接続しておき、電話の着信を待機し、サーバーとしてWindows95マシンを機能させるものだ。待機しているサーバーにアクセスするためには、Windows95本体が標準で持っているダイヤルアップネットワークを使う。つながってしまえば、速度の点では目をつぶるとしても、LANでつながっているのとまったく同じ感覚で遠隔地のパソコンを利用できるのだ。

たとえば、ファイルの転送は、ローカルのハードディスク内でフォルダからフォルダにドラッグ&ドロップするのと同じ操作でできるし、プリントアウトも可能だ。また、Microsoft Exchange(エクスチェンジ)はリモートメールに対応しているので、出先のパソコンから電子メールを出したり読んだりもできる。

プラス!がないかぎり、この環境は、WindowsNTのRAS(リモートアクセスサーバー)機能を使って待ち受けることで構築するしかなかったわけだが、Windows95だけの環境でも、ほぼ同じことができるようになるわけだ。この連載を読みながらも、パソコンが2台しかないのに、そのうち1台にWindowsNTを入れるなんて非現実的...などと思っていたユーザーの方には朗報だ。

プラス!をセットアップすると、マイコンピユータのダイヤルアップネットワークアプレットを開いたウィンドウの接続メニューの中に「ダイヤルアップサーバー」という項目が追加される(図1)。ここで着信する、しないをチェックし、パスワードなどを入力しておく(図2)。すでにWindowsNT

ServerによるドメインコントローラーがあるLANにそのパソコンが接続されている場合は、ユーザーやグループに対して個別にアクセス権を与えることができる。

すでにあるLANに対して、外部から容易にアクセスできる電話回線の口を用意することは、ある意味ではとても危険なことである。Windows 95のサーバーはPPP接続も可能だが、あえてそれをしないで、TCP/IPではなくNetBeuiなど、別のプロトコルで接続するようにして、Windows 95を一種のゲートウェイとして利用できるようにするというのも1つのアイデアだ。

## FAXも電子メールも 1サーバーでこなす

Windows95で電話待機するアプリケーションには、ほかに、エクステンジのファクシミリサービスもある。こちらは、相手も

Windows95のファクシミリを使っている場合、イメージデータとしてではなく、編集可能なバイナリデータとして内容を転送するように機能させることもできる。従来いわれていたところのAt Work FAXだ。大々的なアナウンスが行われたマイクロソフトのAt Work構想は、こういう形でWindows95に取り入れられた。

画期的なのは、ダイアルアップサーバーとファクシミリの両方の着信待ち受けが、1本の電話回線と1台のモデムで可能になる点だ。相手がファクシミリならファクシミリを受信し、相手がダイアルアップサーバーのクライアントなら、通常のデータ通信が行われる。電話回線に余裕のないオフィスでは、ファクシミリとサーバーを兼用できるのは大きなメリットだ(図3)。

さらに、標準のダイアルアップネットワークによる接続やWindows95対応の通信

ソフトを使えば、着信状態を解除しなくても、そのパソコンからの発信も、同じモデムで同じ回線を使って可能になる。これは、通信関連のアプリケーションとモデムの間に入って、データの流をうまく調整するTelephony APIというシカケによって実現されている。

## ネットスケープの対抗馬 高機能WWWブラウザ

プラス!のもう1つの大きな目玉は、インターネット関連のツール群だ。たぶん、本誌の読者の方は、すでに、Webのブラウザとしてネットスケープ2.0などを使っていると思うが、プラス!に標準添付されるのはNCSAモザイクをマイクロソフトが独自に拡張したインターネットエクスプローラーと呼ばれるブラウザだ(図4)。大きな特長としては、Windows95のショートカットな

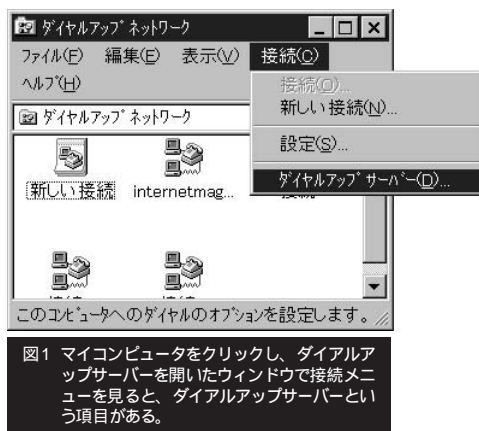


図1 マイコンピュータをクリックし、ダイアルアップサーバーを開いたウィンドウで接続メニューを見ると、ダイアルアップサーバーという項目がある。



図2 ダイアルアップサーバーの設定シート。「着信する」を選び、パスワードなどの設定をする。



図3 Windows95のデスクトップに表示される受信トレイをダブルクリックし、マイクロソフトエクステンジの受信ボックスを開く。電子メールもFAXも、あらかじめ設定しておくところに届く。

どの新しいフューチャーに柔軟に対応できている点がある。

たとえば、どこかのホームページを見ているときに、おもしろそうなリンクがあったとしよう。リンクが張られた文字列には色つきでアンダーラインがついている。それをマウスでつかんでズリズリとデスクトップにドラッグしドロップすると、そこにはそのリンクへのショートカットができあがるのだ(図5)。そして、そのショートカットアイコンをダブルクリックすれば、即座にそのページにジャンプしていく。

あるいは、デスクトップ上を右クリックすると、コンテキストメニューが表示される。その中から新規作成を選んでショートカットを作ると、ショートカット作成のダイアログが表示されるが、そのテキストボックスにhttp://www...といったURLを入れると(図6)そこへのショートカットがデスクトップに作成される。ちなみに、Windows 95では、インターネットショートカットは、.lnkの拡張子を持つ通常のショートカットとは違い、.urlの拡張子を持つ別種類のファイルとして扱われるようだ。

## アイコンを貼り付けた 電子メールを送れる

こうして作ったショートカットアイコンをほかのWindows95ユーザーに何らかの方法で渡すことができれば、受け取った相手は、そのアイコンをダブルクリックするだけで、そのページに飛んでいける。このページを見ておくようにというメッセージとともに、インターネットショートカットアイコンを貼り付けた電子メールを送ると、受け取った側はそれをダブルクリックするだけで、参照すべきページのすべてに目を通すことができる(図7)。それだけで、かなりの作業が省略できるのでないだろうか。

なお、こうしたWindows95特有の機能への対応は、ネットスケープの最近のバージョンでも始まっているようだ。

## インターネットメールを使う プロバイダーを設定

また、Plus!には、エクスチェンジからインターネットメールの送受信を可能にするサービスプロバイダーも添付される。こち

らは、コントロールパネルの「メールとファックス」アプレットを開き、サービスとして追加することで利用できるようになる(図8)。MIMEをサポートし、相手も対応していれば、リッチテキストフォーマットを使い、表現力の高い電子メールをやりとりできる。もちろん、バイナリーデータの添付も可能だ。メールの作成は、エクスチェンジを使うので、添付したいファイルがあれば、さっきのインターネットショートカットを含め、ファイルのアイコンを文面にドラッグ&ドロップするだけだ。

これで、インターネットメール、ザ・マイクロソフトネットワークのメール、ファクシミリ、そして、Windows95のポストオフィスのメールなど、およそ考えられるすべての種類のメッセージがエクスチェンジで管理できる。これにニフティサーブだけのPC-VANだのといった一般商用BBSのメールが加われば完璧だ。なお、マイクロソフトネットワークに「ザ」をつけるのは、LANとしてのマイクロソフトネットワークと区別するためだ。マイクロソフトも実にややこしい名前をつけてくれたものだと思う。



図4 ネットスケープ2.0のような機能をもつインターネットエクスプローラー。リンクが張っている部分をマウスでドラッグしてデスクトップ上にもっていきける。



図5 図4の操作でデスクトップにできたアイコンをダブルクリックするとインターネットエクスプローラーが起動する。



図6 デスクトップ上で右クリックし、「新規作成」「ショートカット」を選ぶ。ここでURLを入力。



図7 マイクロソフトエクスチェンジを起動して電子メールを作成する。この画面にアイコンを貼り付けるだけでいろいろデータが送れる。



図8 コントロールパネルの「メールとファックス」から「サービス」を選び、インターネットメールプロパティを表示。接続先のプロバイダーに合わせて設定する。

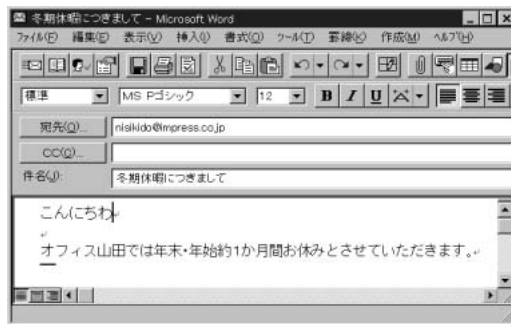


図9 Office95をインストールしておき、エクスチェンジを起動する。作成メールのWordMailオプションが設定されていれば、電子メールエディタとしてWordが使える。

また、Microsoft Office for Windows95では、Word95がWordMailという機能をサポートし、エクスチェンジによるメールの読み書きにMicrosoft Wordそのものを使うことができる(図9)。メール作成に必要なツールバー上のボタンや宛先入力用のテキストボックスが用意され、いつものワープロ感覚で電子メールが書けるようになるわけだ。

ただ、問題は、どこを入り口にしてインターネットに接続するかだ。たとえば、いま、自分の使っているプロバイダーはそのまま利用できる。また、米国のザ・マイクロソフトネットワークのアクセスポイントには、すでにインターネット対応のものが多数設置され、そこを接続先に指定すると、ザ・マイクロソフトネットワークと同時にインターネットにも接続することができるシカケになっている。プラス!では、インターネットのセットアップ時に、プロバイダーとしてザ・マイクロソフトネットワークを利用するように設定すると、最後に、最寄りのア

クセスポイントに接続し、アクセスポイントの最新電話番号リストを自動的にダウンロードするようになっている。この一連の作業は、ウィザードによって、何も考えなくてもできる。

残念ながら、その作業が終わると、日本にはインターネットに対応したアクセスポイントがないので接続できないという冷たいメッセージが表示されてしまう。10月終わりの発表会では、日本のアクセスポイントがインターネットに対応するのは、96年の春になるということだ。また、現時点で発表されているザ・マイクロソフトネットワークの利用料金は月額18米ドルで月2時間まで、超過分については1時間あたり12米ドルと、毎日使うには、けっして安くはない。国内に、もっと安く、スループットもそれなりのプロバイダーがたくさんある以上、インターネットプロバイダーとしてザ・マイクロソフトネットワークを使うというのは、あまり現実的ではないかもしれない。

## オフィスネットワークはWin95だけでもできる

このように、Windows95だけで組んだLANであっても、かなりの応用性があることがよくわかる。専任の管理者がいるわけでもなければ、パソコンネットワークに多額の投資ができるわけでもない。そんなオフィスにとっては、もっともインスタントにLANを張れる方法の1つとなるだろう。スタッフ2人にパソコン2台、外出用にノートパソコンが1台というような、いかにもありそうな環境では、さすがにWindowsNT Serverを設置してのネットワークは大仰だ。が、とりあえず始めてしまっ、先のことは後で考えてもいいわけだ。そんなイカゲンさが許されてしまうのが、Windows95によるネットワークなのではないだろうか。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)